

.....【7】..... 広報たかだ 42・11・15 発行 (第三種郵便物認可).....

百間堀といいますが、実は長さが百五十間(二七〇メートル)以上あります。青田川も流れを切りかえました。旧青田川跡は、南城町一丁目と二丁目の境界になっています。百間堀や青田川を掘った土をつみ上げて、外郭の土居(土墨)をききました。

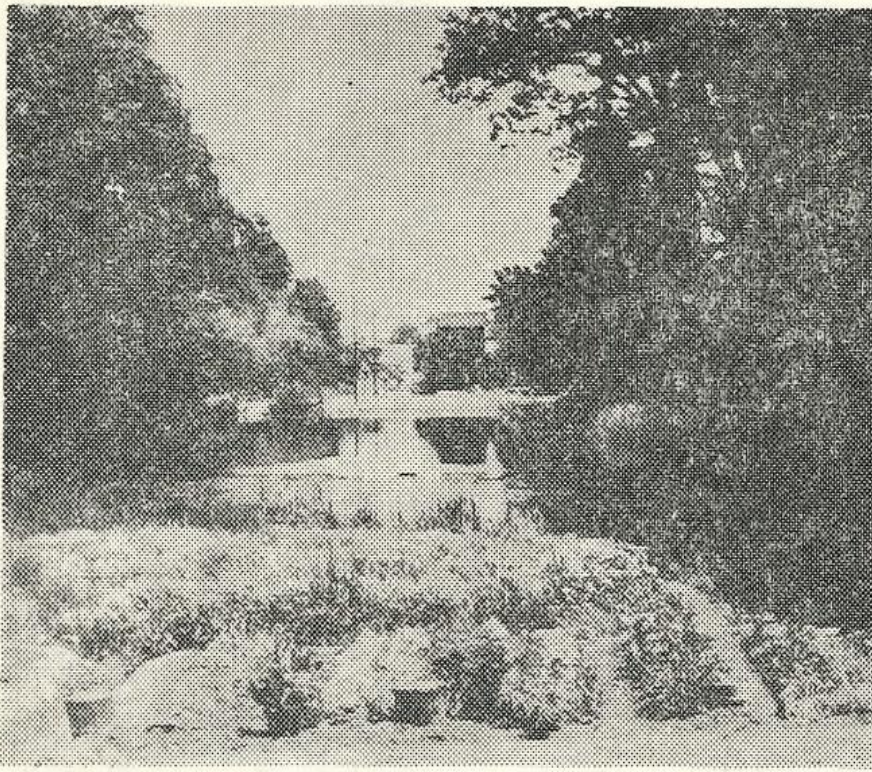
これは、一昨年六月にとった百間堀の写真です。西方の埋め立て地から東の方を写したのです。まだ堀が残っていますが、やがてここが住宅地に生まれかわります。

この堀は、今から三百五十三年前の慶長十九年(一六一四)にきずかれた高田城南部を守る堀の一部で、青田川、矢代川(やしろがわ)跡、荒川、旧関川跡とともに、城の外郭(そとぐるわ)を形成づくっていました。

この写真は、一昨年六月にとった百間堀の写真です。西方の埋め立て地から東の方を写したのです。まだ堀が残っていますが、やがてここが住宅地に生まれかわります。

# 百間堀

●高田城南部の守り



百間堀 (昭和40年6月写す)

矢代川は、瀬違(せちがひ、和田地区)という所で、川瀬を切りかえて、東方の関川に注がせました。百間堀は、旧矢代川跡と青田川との間の防備を固めるやくめであったことは、この絵図ではっきりわかります。

× ×

この写真の左がわは土居で、右がわの樹木の茂っている所は、昔は待屋敷でした。土居のうちは城内の待町でした。

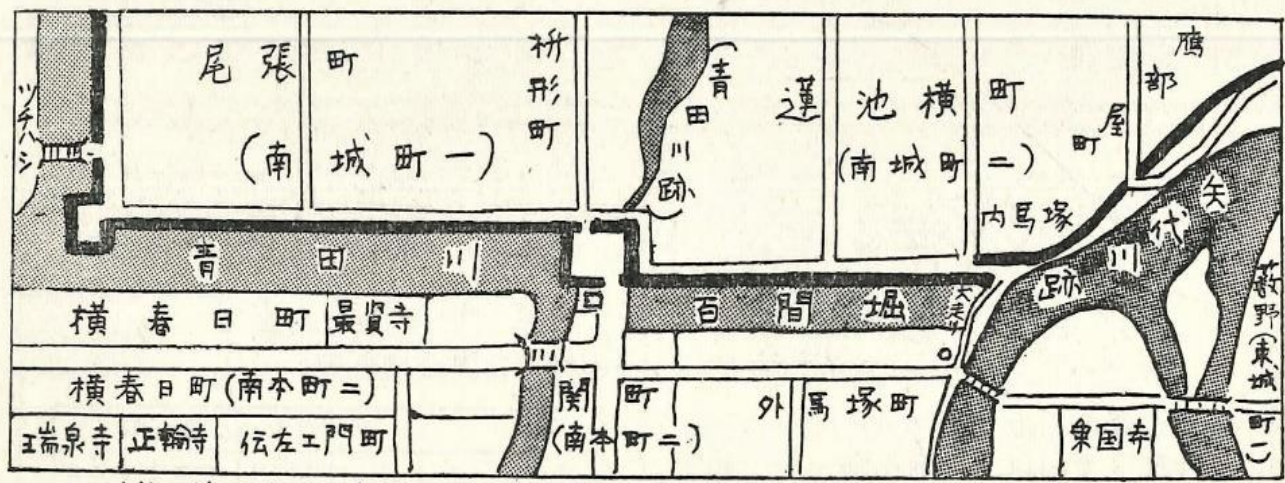
写真の前方に、百間堀の東端の土手があり、土手の上の細い道は犬走りといって、郭内と郭外を結ぶ隠れみちでした。犬走りのむこうに見える家は、旧矢代川跡の埋

め立て地に建てられた家です。この写真には見えませんが、犬走りの右のはしの道路わきに「馬塚古跡」と呼ばれた立石が、小さな塚の上に立っています。上杉謙信の馬の塚だと言ひ伝えられていす。永禄四年(一五六一)九月十日の川中島の戦いに、謙信が敵陣にぎりこんだときに、その乗馬が傷つき、こままでたどりついていたおれたのだそうです。高田築城より五十年以上前の話です。この塚のため、内馬塚・外馬塚という町名ができました。

そこから乗国寺という寺へ行くのに、矢代川跡にか

けた橋を渡らねばなりませんでした。この辺は花しょうぶが川跡に咲き乱れ、しょうぶの名所でした。

百間堀と青田川の間には、枳形(ますがた)がありました。枳形は城の入口の防衛施設です。郭内に入入する人を監視する木戸番所もここにありました。



越後家時代絵図 一 土居 枳形 馬塚